



「ここでの暮らしは不便だ」。国東に生まれた人の中には、そう言って市外に出ていく人もいます。一方で、都会から国東に移り住んだ人にも理由を聞いてみると、「都会にはない暮らしの豊かさが、国東にあった」との答えが返ってきます。人と人、人と自然のつながりを感じながら過ごせる暮らし——。便利な都会で暮らしてきた人たちが国東に感じる魅力は、私たちの身近な日常生活のものにありました。

地域活性化のカギは、この豊かな暮らしの価値に、私たちが気付くことにあるのではないのでしょうか。支え合い、つながり合って、地域の暮らしを守っていく。そして、その暮らしを誇りを持って発信していく。その先に見えてくる、地域の未来。「寄ろう会」の挑戦は、まだ始まったばかりです。

豊崎地区の地域支え合い活動団体「一村一心の会」の皆さん



中学生が熊毛地区の空き家を調査 子どもの目線で市に空き家の活用方法を提案

地域の人口減少を自分たちで抑制しようと、熊毛地区の地域団体「大輪」が、地域の空き家の調査を開始。その際、「大輪」は地域の中学生に依頼して調査を行うことにしました。地域の未来を担う子どもたちにも、地域の実情を知ってもらいたいと考えたからです。

地元中学生10名は、昨年3～7月にかけて熊毛地区の空き家の状態を一軒一軒、調査。中学生が目にしたのは、想像以上に厳しい地域の衰退です。そこで、中学生は調査だけでなく、空き家を活用した地域振興策も考えることにしました。そして12月25日、中学生は三河市長らに空き家の活用策を提案。市の空き家問題について、調査から解決策の提案までを主体的に行ったことは、中学生にとって大きな経験となりました。



上から「熊毛地区の空き家143軒を調査」「調査結果を『大輪』と区長に報告」「三河市長らに空き家の活用方法を提案」「提案を終え、充実した表情の中学生」。中学生は移住体験、子どもの集まる拠点づくり、公園整備、芸術家との連携などを提案しました。

あさひネットの拠点 「旭日テラスひのわ」が完成

地域内外の人々がつながる温かな交流施設に

地区の空き家を改装した「旭日テラスひのわ」（国東町綱井）が12月12日にオープンしました。この施設は、地域支え合い活動を行う団体「里づくり旭日ネットワーク協議会（あさひネット）」の活動拠点として整備されたものです。また、地区のシンボル・祇園山に設置されたアート作品の案内所としての機能も持ち合わせています。

地域内外の人々がつながる、温かな交流施設として生まれ変わった地区の空き家。「旭日テラスひのわ」の誕生で、旭日地区のさらなる活性化が期待されています。



県道沿いに立地しており、旭日地区公民館も隣接しているので、利便性の高い施設です。

「地域支え合い活動」 図書館協働展示

今回の受賞を記念して、地域づくり支え合い活動についての説明パネルや、活動の様子の写真などを展示します。ぜひご覧ください。

国見図書館 3/2(水)～13(日)
武蔵図書館 3/16(水)～27(日)
安岐図書館 3/30(水)～4/10(日)

【本特集の問合先】
国東市社会福祉協議会 福祉支援課
☎ 64-7100

“寄ろう会”が国から表彰

「九州・沖縄地域共生社会推進フォーラム」
団体部門・部門賞 受賞

1月28日、「寄ろう会」が厚生労働省九州厚生局から表彰されました。これは、「寄ろう会」のインターネットを活用した情報発信の取り組み「国東つながる暮らし」が、地域共生社会の実現における先進的な事例として、高く評価されたものです。

野田敏廣委員長は「今回の受賞を励みに、コロナ禍に負けずに地域づくりや情報発信を行ってまいります」と話していました。



三河市長に受賞報告をする関係者。



表彰式はオンラインで行われ、坂口弘道副委員長が取り組みを発表しました。